

巻頭言

第三次産業革命と工業教育

山形県高等学校教育研究会 工業部会長

(山形県立長井工業高等学校長) 船 山 秀 一

かつて世界を席卷した大手電機メーカーの再建はできるか？NHKの「メイドインジャパン」を観ながら、ものづくりにかけた日本の情熱と誇りの行き先にどんな運命が待つのか、奇跡の逆転があるのか、今後の展開を楽しみにしている。

この年末から年始にかけて円安が進行しているというものの、特に輸出関連の製造業に対して厳しい状況が続いていることに変わりはありません。この1年の主なニュースだけでも、ルネサス社の再建、ソニー・シャープ・パナソニックのそれぞれ5000億円を超える赤字、富士通の半導体撤退策による岩手工場売却、東芝の59年に亘る薄型テレビ生産撤退、国内唯一のDRAMメーカー・エルピーダの経営破綻等、枚挙に暇がありません。これらは決して対岸の火事ではなく、生徒の進路と将来に影響する大問題です。東日本大震災後、脱原発や卒原発が叫ばれましたが、製造業に密接に関係する電力を始めとするエネルギー政策も変わろうとしています。

さて、12月の県高教研工業部会研究発表会では5本の発表があり、研究討議では、本県工業教育における情報モラル、ICTの活用について研修し理解を深めました。また、教員対象の実技講習会には、「木材加工」と「電子機器組立て」に計20名の参加を得ました。どんな時代にあっても、私達教員の工業教育にかける熱意と創造的な研修が、本県工業教育の充実と実践力のある人材の育成に繋がるものと考えています。

ところで、「二十一世紀の産業革命」という惹句で話題の『MAKERS』という本があります。3Dプリンタやレーザー・カッターのようなデジタル工作機械が普及したことで、専門知識を持たない人たちでも「もの」をデザインできるようになったこと、誰もが「メイカーズ=欲しい製品を自ら作る人」になれる時代がもう来ている、という内容で、著者は「これは第三次産業革命だ」と言っています。第一次産業革命で手作業が機械加工に、第二次産業革命で大量生産時代に、大企業による大工場での大量生産だったものづくりが第三次産業革命で再び個人の手へ。そんな時代が来ていると言うのだ。この1月3日の山形新聞にも、山形大学の教授が3Dプリンタを使ってゲルの研究に取り組んでいる記事が掲載されました。彼曰く「数年のうちに、自宅のプリンタでカラーコンタクトレンズやソフト食品が印刷できるようになる」とか。私達は今、知らないうちに「時代の大きな分岐点」に立っているのかも知れません。

結びに、去る12月27日、技能五輪全国大会が平成28年秋に山形県で開催されることが決定しました。世界に羽ばたく工業高校卒業生が多数輩出されることを期待しつつ、本部会の活動に協力くださった関係各位に深く感謝申し上げます、挨拶と致します。